

**ごきぶりの部屋を出るときふりかへり** 田中章子  
 ごきぶりは、つつと走って立ち止まる習性があるが、それを振り返るとして擬人化。面白い句になった。擬人化による親しみと、不気味さを表現。

**鳴け鳴け蛙今しかない今だ** 鈴木和枝  
 蛙に楯を飛ばすなんて、これまでの句にない面白さがある。しかも意図的にか、三段切れである。俳句を新しくするには、挑戦的試みも必要。

**一癖も二癖もある夏の風邪** 澤田薫恵  
 腐れ縁のように毎年やってくる悪友。一癖も二癖もある奴だ。季節はずれの夏風邪も、そんなもの。改悪して、「客人や夏風邪のごと癖のある」。

**みちのくの鯨に嫌疑およびけり** 小林英昭  
 家では奥様から「粗大ゴミ」扱いをされて、仕方なく昔の不良仲間  
 に声をかけたのです。同僚相憐むとか。仲間と奥様を罵る声が聞こえます。

**百薬を芍薬と言ふ江戸育ち** 守屋八郎  
 酒は百薬の長なんてことを言う。それを芍薬の長では困るという、言葉遊びの句。江戸っ子は、「ひ」と「し」の発音を混同。日比谷を「しびや」等。

**夏座敷上座におはす故障テレビ** 桜井宇久夫  
 老夫婦が農地を守る古風な家をイメージ。故障テレビを大切に  
 可笑しさ。しかし、ここは時代を取り入れて「デジタルのテレビ上座に夏座敷」。

今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

**天井の海老の厚着や更衣** 山本あかね  
 ・・・・脱がせちや駄目と店主が睨む

**扇風機酷使覚悟で出陣す** 石川節子  
 ・・・・これが最期のご奉公かと

**雨粒を数珠繋ぎして女郎蜘蛛** 稲沢進一  
 ・・・・獺猛なれどビーズの手芸

**水虫の存在感なる痒み** 有吉堅二  
 ・・・・いつか爆発する不発弾

**小波を広げ蛙の平泳ぎ** 加藤澄子  
 ・・・・翁の一句につけて楽しき

**子の書架に潜む悪書や山笑ふ** 寿命秀次  
 ・・・・こんなことまで親ゆずりとは

**梅肉に引き立てられて鱧料理** 高橋マキコ  
 ・・・・脇役ありてこそそのモノゴト

**節電で少子化止むか夏の宵** 丸山紘一  
 ・・・・節電ベビーの新語登場

**大空に蛸の変身いかのぼり** ひがし愛  
 ・・・・風にならずに烏賊になつたか

**強情を形にしたら夏蜜柑** 日根野聖子  
 ・・・・軟弱なのがイチジクだなあ

**いやいやのやつともろはだなつのふじ** 藤岡蒼樹  
 ・・・・富士の性別どちらなんです？

**サングラス外さなければ良いものを** 松尾軍治  
 ・・・・そんな垂れ目じや凄みが効かぬ

**露出度を上げるほかなき耐暑法** 横山喜三郎  
 ・・・・周りノヒトガ暑クナルジヤン

今月の滑稽句

青梅を寝転び獲りし媪あり 【佳作】玄關に見料なしの花臈月 数よく見争ひはよせ残り鴨	青山桂一 青山桂一 青山桂一
天然の怖し美わしみどりの日 豆の蔓からみじゃれあふ園児どち 【佳作】雨上がりて男もかざす日傘かな	秋月裕子 秋月裕子 秋月裕子
七十路の五十肩とて更衣 さも鶯の遠隔操作卯月波 文字摺草見返り美人の仕種して	麻生やよひ 麻生やよひ 麻生やよひ
一時間おきに塗り込む日焼け止め 【佳作】クールビズよくぞ女に育れける 伸びよ伸びよとゴーヤに水をやりすぎに	足立淑子 足立淑子 足立淑子
梅雨晴れもしかと続くや相合傘 住民票ア口八の人より渡さるる 【佳作】柏手のように蚊を追う夜明けかな	有富洋二 有富洋二 有富洋二
時の日に生まれ渾名は遅刻王 父の日の父も昔は強かった 父の日の父の何かと落ち着かず	有吉堅二 有吉堅二 有吉堅二
雑穀八種御薬七種で梅雨迎へ 柿の花落ちて知らるる愛けなさ 【佳作】逆さ富士モーターボートでぐちゃぐちゃに	安藤淑子 安藤淑子 安藤淑子
【佳作】水馬踏ん張る度に流さるる 夏布団十六文の足を出し 草茂る父祖の田畑を持て余し	飯塚ひろし 飯塚ひろし 飯塚ひろし
【佳作】梅雨の蝶探し物はなんですか でで虫や老ひはそこまでやってきた 六月の女駆け出す電車口	井口夏子 井口夏子 井口夏子
【佳作】クールビズはおいらに習えと浅間の鬼 置き去りの動物集い花の宴	池田亮二 池田亮二
可決せむ猛暑予想の不信任	石川節子
鯉幟日暮れて籠になり切れず 父の日やこの頃耳を遠くして 【佳作】おもしろく田植象をしたる疲れかな	板倉肱泉 板倉肱泉 板倉肱泉
【佳作】夏痩せの娘の介護する母肥満 烏瓜の花の館のホームレス 毛虫焼く胸のクルスを揺すらして	伊地知寛 伊地知寛 伊地知寛
【佳作】相続のもめて半分のみ代田 ペンギンとライオン虫歯予防の日 薬屋はドラッグストア薬の日	伊藤浩睦 伊藤浩睦 伊藤浩睦
片蔭を探して一巡駐車場 缶ビール飲み干されしあとに潰れ	稲沢進一 稲沢進一
【佳作】少子化や子ツバメー羽燕の巣 のろのろと早苗満載車行く 剪定や邪魔な枝切る私の技	井野ひろみ 井野ひろみ 井野ひろみ
【佳作】熟し枇杷なりテーブルに横たはる 門灯に体当たりせし金亀子 新玉葱刻み涙のあふれたる	今城夏枝 今城夏枝 今城夏枝
【佳作】危絵の虫干をする妻の留守 水虫を一年がかりで退治せり 甚平で出勤未だ許可の出ず	宇井偉郎 宇井偉郎 宇井偉郎

今月の特選句・秀逸句 / 「今月の滑稽句」

【佳作】	市民権得たるラ抜きや青葉風 機械化の田植見てある授業中 女子高の旅行の風呂に百足出づ	宇佐美徹郎 宇佐美徹郎 宇佐美徹郎
【佳作】	かたまつてお化け見にゆく夏休み ビール缶握り潰せるわが余力 舟虫を持って帰れと言はれても	氏家頼一 氏家頼一 氏家頼一
【佳作】	喜寿すぎて甚平のよく似合ひけり 祭笛吹かんと顔をあらたむる 今年竹子の行末の見えて来し	越前春生 越前春生 越前春生
【佳作】	初鰹先ずは広告見比べて 情報は情け知らずや走り梅雨 すももにはすももの酸味つつがなし	奥脇弘久 奥脇弘久 奥脇弘久
【佳作】	衣替加齢に合はぬ胴まはり 蛇苺噛みて無毒と覚えけり 偵察の蟻縦横にひた走る	笠 政人 笠 政人 笠 政人
【佳作】	新芽伸ぶ兔の好物だつた「はず」 水の足り長瀬は厄介者となる	加藤澄子 加藤澄子
【佳作】	同居せぬ嫁より届きカーネーション 三光鳥解説どほりには鳴けず 牡丹にただ手を触るるだけのこと	加藤 賢 加藤 賢 加藤 賢
【佳作】	担ぐよりぶら下がりをり荒神輿 よぢ登り雨へ近づく枝蛙 万緑や窮屈さうに子は遊び	金澤 健 金澤 健 金澤 健
【佳作】	風評を吹き飛ばしてよ青嵐 柏餅位牌に供へ愚痴こぼす 風薫るピエロの鼻にある憂ひ	川島智子 川島智子 川島智子
【佳作】	台風を押されてなりぬ男梅雨 雷鳴や歯科医の椅子に尻窄め 薔薇贈る粹など無くも恙なく	川高郷之助 川高郷之助 川高郷之助
【佳作】	潮吹くや鯨飲み込む初鰹 いつまでも大口開けて鯉のぼり 鯉のぼり今日は何キ口泳いだか	久我正明 久我正明 久我正明
【佳作】	落語家で寺の住職落ち椿 赤旗をたどれば椿咲ける寺 竹の子の鼠に似しを猫にやる	工藤泰子 工藤泰子 工藤泰子
【佳作】	鉄砲ゆり微妙な関係保ちつつ 雷鳴に公衆トイレへ駆け込みぬ ヨウ素よりウ素の上塗りソーダ水	倉方 稔 倉方 稔 倉方 稔
【佳作】	早いものです若草の伸びと古い 機械化の一人田植の哀れさよ	黒田忠一 黒田忠一
【佳作】	がうななら仮設住宅お手のもの でむしの寝袋を背のボランティア	小林英昭 小林英昭
【佳作】	節電の大號令や夏来たる 大相撲技量審査の五月場所 夏来たる癌細胞もわが身内	小見山希靨子 小見山希靨子 小見山希靨子
【佳作】	情報の捨て場で愚痴が吹き溜 天災が人災になる摩訶不思議 焼酎に甲乙格差乙高価	齋藤八兵衛 齋藤八兵衛 齋藤八兵衛
【佳作】	更衣期待するのはシースルー ランニングすててこエコの夏衣 父の日や何事もなく過ぎにけり	酒井鹿洋 酒井鹿洋 酒井鹿洋
【佳作】	うっかりと蝌蚪に生まれてしまったの 世を拗ねる逆立ちとなるカタツムリ まだペンキ塗りたてなんです雨蛙	坂本牧子 坂本牧子 坂本牧子
【佳作】	ナビなくて北へ合掌西日背に みちのくの冷酒包みし地方紙読む 素裸の機嫌にげ出す女の嬰	桜井宇久夫 桜井宇久夫 佐藤古城
【佳作】	ゴムプール女の子男の児と見せ合つこ 墓のあて門を入れぬ令夫人	佐藤古城 佐藤古城

今月の特選句・秀逸句」 / 「今月の滑稽句」

孫の柵いづれ我が身の守り神 【佳作】腰痛で筋トレ励み湿布貼る 簾がけお向いさんも同じかな	佐藤義子 佐藤義子 佐藤義子
【佳作】僕つて何つて何を言つてる花見酒 薫風や肘掛窓に立つ徳利 女生徒の躁はおそろし更衣	猿渡 仁 猿渡 仁 猿渡 仁
黒南風やとんび叛かず従わず ストレスは犬に喰わせて梅雨上る	澤田篤恵 澤田篤恵
【佳作】脇役も時に主役や根大根 唐変木素顔がとり得緋木瓜かな 初音かも魔の十三日が金曜日	柴田真一 柴田真一 柴田真一
七難を補ふ妻のサングラス そもそもは金の卵ぞ羽拔鳥 【佳作】小判草じやらじやら揺れて空家なり	清水吞舟 清水吞舟 清水吞舟
【佳作】老斑のふえて味よきバナナかな 不機嫌なバリカンが噛む暑さかな 頼りなき男来ること扇風機	下嶋四万歩 下嶋四万歩 下嶋四万歩
畳まれて刑期一年鯉幟 巣づくりのアベックつばめ調査に来	壽命秀次 壽命秀次
【佳作】父の日の取って付けたるやうにあり 依怙鼻肩あるとも知らずつばめの子 あっさりと二の腕見せて更衣	白井道義 白井道義 白井道義
植田今夜蛙にまかせておく 蛙よ本気で鳴け明日田植	鈴木和枝 鈴木和枝
【佳作】おなかへり献立決めて夏座敷 弁当やキャベツきざんとんかつに 焼き肉を炭火で焼いてビールかな	鈴木哲也 鈴木哲也 鈴木哲也
【佳作】マニュアルの笑顔卯の花腐しかな 海賊が飛ばす薄曇のレンタカー 鉛筆の転がる五月女子パワー	鈴木みのり 鈴木みのり 鈴木みのり
【佳作】蜂の尻ふれば雄花のゆれにけり 万緑や氏神様は知らぬ顔 五月病恋煩いも入れておく	高田敏男 高田敏男 高田敏男
隅っこに追われて金魚ポイ破り 新緑の楠や夜風にざわめける	高橋マキコ 高橋マキコ
【佳作】知りたくもなき新知識五月尽 十薬に隔てられたる隣家かな 何気なくハンカチ落としてみたりもし	高橋 都 高橋 都 高橋 都
梅雨空へ明日を占ふ下駄高く 降水確率ゼロだったのに蝉時雨	高橋素子 高橋素子
でで虫の自慢の家の透けてをり 万緑や山は緑の怪獣に	田中章子 田中章子
【佳作】夏蝶や生命力を刻み翔ぶ 俳句でのエロスを想ふあやめかな 柿若葉スラム街から帰郷する	田中 勇 田中 勇 田中 勇
【佳作】日焼顔返信迷ふクラス会 遠征の猿十字軍春大根 齡経てもマドンナ今も虞美人草	田中早苗 田中早苗 田中早苗
【佳作】復興のクレーンで揚げる鯉のぼり 斑猫のナビの知らない田舎道 飲むことを忘れていたり薬の日	谷むつみ 谷むつみ 谷むつみ
【佳作】宴たけなは慌て掻き込む豆御飯 臆病もやんちゃもをりぬ子軽鴨 政談も一時中断蠅を追ふ	種谷良二 種谷良二 種谷良二

今月の特選句・秀逸句 / 「今月の滑稽句」

夕端居滑稽俳句苦吟中 サングラス互に素性さぐり合ひ 【佳作】 緑蔭を出れば他人の顔をして	田村米生 田村米生 田村米生
草笛で下校鞆は友まかせ 【佳作】 捕虫網最後に帽子捕えたり 旅終えてポストに枯葉と請求書	土居忠行 土居忠行 土居忠行
【佳作】 震度五の余震に慣れて朝寝かな 初鯉子規にあやかり粥四杯 父の日や父の譲りの医者嫌ひ	飛田正勝 飛田正勝 飛田正勝
とろとろと浅き夢みし三尺寝 五月蠅いと握りしめたる蠅叩 【佳作】 湯上りのビールが喉を擽りて	永島董玉 永島董玉 永島董玉
南に厩舎ありけり風薫る 其の上は窓を開ければ冷房車 【佳作】 取り逃がす男やもめの山女釣	西をさむ 西をさむ 西をさむ
あつぱつぱおばちゃんのこの無敵感 油断してをれば梅雨入りしてあたり 【佳作】 衣更へて階段かろく駆け上がる	原田 嘩 原田 嘩 原田 嘩
モアイ像運びし裔か蟻の列 水馬・水すましのごとサーファー等	ひがし愛 ひがし愛
かたつむりキャッシュカードを持ち歩く 【佳作】 薩摩守優先席の昼寝かな 回遊魚横目横目に夏来る	久松久子 久松久子 久松久子
前向きてふ言葉が嫌ひ夏来る 短夜を煌かせ長寿のLED	日根野聖子 日根野聖子
はきはきと客に応ふる更衣 水漏れの修理を眺む青蛙 【佳作】 包丁の冥利に尽くるキャベツ切り	広瀬雅幸 広瀬雅幸 広瀬雅幸
【佳作】 卯月波渚の泡の押しくらべ 赤道下船のプールの歓声の	藤岡蒼樹 藤岡蒼樹
【佳作】 かたつむり登坂車線を行くつもり 七月に宿題終へる夏休み この頃は蝉も触れぬ子の増えて	藤森荘吉 藤森荘吉 藤森荘吉
【佳作】 まだ何かできさうな朝蝸牛 病床の軒に安堵夏暁 亡き母の足音のして桐の花	藤原セツ子 藤原セツ子 藤原セツ子
夫は留守スキップしたい春帽子 茄子の葉を刻む憎つき夜盗虫 【佳作】 宅配便みかんについて青虫も	古野セキエ 古野セキエ 古野セキエ
田植えする七十過ぎの早苗さん 【佳作】 いつの間に終はつちまつたやら五月場所 麦の秋公式どおりのチュッチュチュチュ	前 九疑 前 九疑 前 九疑
夏集うお化け妖怪ナベオカマ 臍毛撫で法螺口たたたく夕涼み	松尾軍治 松尾軍治
行く春や大なみに吐く「馬鹿野郎」 国難をよそに政愚の夏来たる	丸山紘一 丸山紘一
【佳作】 押し出されほっと一息とこころてん 雨の日の今日が決行七変化 思い切り胸を開けよう梅雨晴れ間	三塚不二 三塚不二 三塚不二

今月の特選句・秀逸句 / 「今月の滑稽句」

<p>女郎蜘蛛わたし搦めてなんとする 【佳作】 なんとなく蛭が出そうで回れ右 早苗田の苗もこっくり昼下がり</p>	<p>三橋一笑 三橋一笑 三橋一笑</p>
<p>鯉幟がんじがらめに巻きついて 【佳作】 新樹光オブジェのように座る女 さざ波は走る仔亀は悠悠と</p>	<p>村上美和 村上美和 村上美和</p>
<p>負の遺伝かく断ち難し花うばら 【佳作】 海星いざるや眼ふと戻すたび 五月雨や美談を遺し男逝く</p>	<p>百千草 百千草 百千草</p>
<p>節電やイヤヨイヤヨの扇風機 蚊柱やライバル多き恋の道 【佳作】 ひまわりが立たされてるのはアノネノネ</p>	<p>森岡香代子 森岡香代子 森岡香代子</p>
<p>国会はカン（菅）蹴りゴッコで災地梅雨 【佳作】 節電に家は団扇で団扇もめ 栗の花不具り狸が富栗待つ</p>	<p>森 要 森 要 森 要</p>
<p>娘にも被せ置きたき袋掛 社長よりお先に毒味する新茶</p>	<p>守屋八郎 守屋八郎</p>
<p>天金の天銀と化し辞書のの黴 梅の雨実梅にはじき返さるる 【佳作】 ブロッコリーは萬新緑がパセリなら</p>	<p>八木 健 八木 健 八木 健</p>
<p>原色は薄暑なりけりクールビズ 【佳作】 論争のどこ吹く風の古扇 天井に敗着の手や明易し</p>	<p>柳 紅生 柳 紅生 柳 紅生</p>
<p>憂さ晴らし娘に連れ出され深山湯に 一人居の鎮まる夜の閑古鳥 【佳作】 惚け防止漢字のテスト「鯉」です</p>	<p>柳澤京子 柳澤京子 柳澤京子</p>
<p>【佳作】 火星人ほどか牡丹の首荷重 五十肩目前吾子の初節句 辻風に身を寄せ合ふや花卉島</p>	<p>山下正純 山下正純 山下正純</p>
<p>ラジオ体操尺取虫も屈伸す いつからの主顔なる墓</p>	<p>山本あかね 山本あかね</p>
<p>五月鯉上げ廊下行く点滴棒 【佳作】 筍を除けて食べる子散らし鯨 手術を終へし眼を驚かすばらの色</p>	<p>山本けい子 山本けい子 山本けい子</p>
<p>うれしさう洗ひ上つたはうれんさう 目玉ある切身がバックに桜鯛 【佳作】 夏草に指を切られてしまひけり</p>	<p>山本 賜 山本 賜 山本 賜</p>
<p>引退もできず早乙女唄どち 三越にすててこ売場クールビズ</p>	<p>横山喜三郎 横山喜三郎</p>
<p>【佳作】 この夏はサマータイムにクールビズ 被災地の元気をもらふ梅雨の蝶 銀河ゆゆ宇宙ロケット噴火して</p>	<p>渡辺さだを 渡辺さだを 渡辺さだを</p>